



活動報告

支援・助成事業の紹介

神戸文化ホール開館50周年記念事業、ヴェルディ・オペラ・フアルスタッフ

日時：12月24日（土）

会場：神戸文化ホール大ホール

神戸ルミナリエ協賛事業、KOBEDeライト・ファウンテン

日時：1月24日（金）～2月2日（日）

会場：東遊園地南側園地

神戸ならではの美味しい食事と、ジャズとフルートを中心にステージプログラムが実施されました。

会員交流船上パーティー／港の夜景と名演奏を楽しみながらクルーズ／スーパーストリングスコーベが来演／6月8日

神戸文化マザーポートクラブ主催の「会員交流 船上パーティー」が2024年6月8日夕、会員や家族・友人ら90人余りが出席して開かれました。ロシアの侵攻で避難してきた人々や在神戸のウクライナ人20人も招待され、クルーズ船「boh boh KOBE」号で2時間余りの交流を楽しみました。

この日は午後6時の乗船の前に、神戸港中突堤中央ターミナル「かもめりあ」のサロンで、スーパーストリングスコーベの5人によるウェルカム演奏がありました。一行が乗船すると、人気DJのhemeさんの司会で開宴。マザーポートクラブ共同代表の伊藤紀美子・神戸商工会議所副会頭が主催者を代表して「美しい神戸の夜景と特別のお料理、素晴らしい音楽と今日のための特別なお料理をお楽しみください」と挨拶し、クラブ幹事でboh boh KOBE号を運行する渡辺真二・早駒運輸代表取締役社長が「京都の料亭監修の料理を社員がご提供します」と歓迎しました。



オリン山本大心、櫃本樹音、ヴィオラ谷田翔平、チエロ櫃本瑠音、コントラバス高本知弥の皆さんが「情熱大陸」などを超絶技巧で披露し、盛り上がったところで出航。高梨柳太郎・神戸新聞社社長（現会長）が「ポートタワーのリニューアルなど神戸のまちが元気に動いています。器ができて大事なのは中身。マザーポートクラブの活動にも期待が膨らみます」と語り、全員で乾杯しました。

参加者は、暮れなずむ神戸港の夕景・夜景や語らいを楽しみながら食事を摂り、櫃本樹音さん、瑠音さん姉妹によるデュオライブも満喫。クラブ事務局長の服部孝司・神戸市民文化振興財団理事長が「来夏は神戸国際フルートコンクールが開催されます。コンクールに向けて、一緒に盛り上げていきましょう」と呼びかけ、閉会しました。

2024交流会／六甲ミーツ・アート総合ディレクター高見澤清隆氏が講演／ジプシージャズのミニコンサートも

神戸文化マザーポートクラブ主催の「文化・芸術交流会」が2024年12月11日、神戸ポートピアホテルで、会員など約60人が出席して開かれました。芸術祭「神戸六甲ミーツ・アート」の総合ディレクター高見澤清隆氏が「現代アートからの新しい視界」と題して、作品解説も交えながら講演してくださいました。

神戸ジャズストリートなどでもおなじみのジプシージャズバンドMondayeu（Vn土井美佳、G伊藤淳介・山本佳史、Cb上山崎初美）によるミニコンサートもあり、独創性あふれる演奏で会場を盛り上げていただきました。

高見澤さんの講演要旨は次の通りです。

■「神戸六甲ミーツ・アート」の歩んだ15年

六甲山の集客を回復しようと展望台やミュージアムを作るうち、「六甲山に彫刻を置けば人が来るのでは？」ということ、私に声がかかりました。ただ、彫刻は価値を伝えていく工夫をしないとけないので、芸術祭をすることにな

り、2010年に「神戸六甲ミーツ・アート」はスタートしました。この15年間の活動で、400組の芸術家たちと関わりました。

これまで秋の六甲山といえ、有馬温泉帰りの紅葉目当てで年配客中心でしたが、ミーツ・アート開催で若い人も訪れるようになり、事業の可能性が見えました。採算ラインぎりぎりの低空飛行ですが、2025年は大阪・関西万博もあるので、関西を代表する作家たちで開催したいと思っています。

マザーポートクラブの会員企業にもお世話になっています。2020年以降はコロナ禍の影響がありましたが、2024年の来場者は約3か月で3万5000人でした。有料施設の入館者数は30万〜50万人くらいになるのですが、私たちはこういう数字を公表しています。民間主導の芸術祭なので、社会貢献なのか、収益事業なのかで悩んでいます。ただ、関西を代表する芸術祭としては頑張っています。

■屋外ならではの課題と可能性

アーティストの選定も、出展者とのコミュニケーションも難しいです。美術館と異なり、屋外では作品を見たくない人も見てしまうことがあります。

今のところ問題は出ていませんが、アーティストの伝えたいことを抑制してしまわないよう知恵を絞っています。自然公園法（環境省）との調整も問題ですが、神戸市の支援で開催できています。私たちは文化と自然を融合することで存在価値を顕在化させていこうとしています。

分かりやすい作品と、謎解きの必要な作品を展示すると、専門家からは「物足りない」、一般からは「こんな分からないもので金をとるのか」と双方からクレームが来ますが、実はそれが健全な状態なのかなと思います。現代アートは「これが正解」というものを示すのではなく、鑑賞した人がどう作品にアプローチするかという場を作ることが、私たちの仕事だと思っています。展覧会をデザインするにあたっては、想像通りの見てもらい方だけを考えていては、予定調和で現代アートの意味がなくなってしまう。そのバランスをとるために、公募をしています。

■「現代アート」の未来図

現代アートについては、さまざまな見解があると思いますが、平たく言うと、読み解く楽しさ、考えることの面白さを再認識する絶好の素材で、自分

を知る、新しい視点を得るリトマス試験紙のようなものだと考えます。

アート思考とは、明確な解答を求めるのではなく、「問い」を創り出し、深めることに重点を置きます。「なぜこう感じるのか」「別の視点ではどう見えるか」と、問いを見出していくのです。常識やルールに縛られず、個性的な視点やユニークな表現を探索します。

今後のミーツ・アートは、出展アーティストの充実に努め、山中の散策路沿いに作品展示するなど会場も充実させます。会期外でも鑑賞できるようにし、六甲山の新たな魅力に出会える場づくりを目指します。

15年やって来ましたが、まだまだ神戸市民に知られていません。大阪からの来場者が一番多いのです。これを使い越えていかなければいけないと思っています。そして、この芸術祭が一つの思想に収斂されていくには、まだ10年、20年かかるだろうと思っています。（談）



今後の予定

六甲

当クラブは、今年8月から行われる「神戸六甲ミーツ・アート beyond」に新たに「神戸文化マザーポートクラブ賞」を出し、若手アーティストを支援します。

第11回神戸国際フルートコンクール

第11回神戸国際フルートコンクールが今年8月29日から9月7日まで、神戸文化ホールで開催されます。当クラブ主催の入賞者祝賀パーティーは9月7日午後6時から、神戸港第1突堤のラ・スイート神戸オーシャンズガーデンで開催します。奮ってご参加ください。

編集後記

今号は、初の船上パーティーと、年に



一度の交流会のご報告です。コロナ禍が落ち着き、神戸空港の国際チャーター便就航、アリーナ神戸オープンと、ミナトが活況を呈してきました。一方で、六甲山も神戸の大きな財産です。山頂から海まで10キロもない、自然と都市、海が近接する魅力あふれる神戸を、阪神・淡路大震災から30年の節目、そして大阪・関西万博の今年、どんどんPRしていきたいと思っています。

編集・発行

神戸文化マザーポートクラブ事務局

(公財) 神戸市民文化振興財団内

〒651-0017

神戸市中央区楠町4-2-2

T e l . 0 7 8 - 3 6 1 - 7 1 0 5

F a x . 0 7 8 - 3 5 1 - 3 1 2 1

<https://www.kobe-bunka.jp/kbmpc/>